

グリーンインフラ推進戦略2030（令和8年1月）

2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画として新たに「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定。本戦略の計画期間を**2030年度まで**とし、**定義や効果、特徴等を整理**した上で**国土交通省の取組を体系的に整理**し2030年度までに**目指す成果を設定**。

グリーンインフラの定義・効果

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。



戦略的な計画



持続的な維持管理



幅広いステークホルダー

自然の多様な機能

- 生息地保全
- 水源涵養
- 雨水の貯留浸透
- 水質・大気質の維持・改善
- 温室効果ガスの吸収
- 気温の緩和・調整
- 騒音・振動の吸収
- 防風
- 防塵
- 延焼の遅延や防止
- 斜面崩壊の防止
- 衝撃緩和
- 遮蔽・遮光
- 流木・漂流物の補足
- 食料生産
- 緑陰形成
- 景観形成 等

インフラに活用

ウェルビーイングの向上

経済的效果

社会的效果

環境的效果

グリーンインフラの多様な効果

- 不動産価値の向上
- にぎわいの創出
- 観光振興
- 移住・定住・二地域居住等の促進
- テクノストレスの軽減による生産性向上
- 地域産業の活性化 等

- 食料の安定供給
- 心理的健康の増進
- 身体的健康の増進
- 防災・減災
- 交通安全
- 子育て、教育
- 生きがいの創出
- 地域コミュニティの形成
- 地域への愛着向上 等

- 生物多様性の保全
- 健全な水循環の保全
- 良好な生活環境の形成
- 気候変動の緩和 等



生物多様性の保全



良好な生活環境



避難場所・防災拠点



暑熱対策



雨水貯留浸透



魅力的な景観



コミュニティ形成



不動産価値の向上

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、2050年に向けて**「自然共生社会」の実現**を目指す。

グリーンインフラの更なる実装に向けた分野横断的な環境整備

- 国民的な機運・理解の醸成
- 多様な効果の見える化
- 官民の取組を促進する環境整備
- 資金調達の円滑化
- 新技術・DXの活用
- 国際展開



グリーンインフラ官民連携プラットフォーム



GREEN×EXPO 2027



公式マスコットキャラクター
トゥンクトゥンク
©Expo 2027

社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装

- 持続的で快適な都市・生活空間の形成
- 防災・減災
- 暑熱対策
- 生物多様性の確保
- 地域経済の活性化
- 温室効果ガスの削減
- 循環型社会の形成



都市緑化・道路緑化



流域治水との連携



ブルーインフラ